

特集

「ウマ」にまつわる

e t c

エトセツ

※インターネットより引用

新年あけましておめでとございます。

今年の干支は『ウマ(午)』です。「ウマ」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか。競馬、乗馬、馬力などさまざまなことが浮かんでくるものと思います。

「ウマ」は、古くから人との関わりが深く、食用や移動手段などに利用されるなど、とても有用な動物です。

今回は、「ウマ」にまつわる言葉や漢字、地名などの一部を紹介します。



「午」と「馬」との関係

(言葉の語源・由来)

干支で使われる「午」という字は、本来の読み方は「ゴ」と読み、年や時刻などにあてられる方角では「南」を指します。

「午」という漢字は、もちをつく「杵」の原字で、上下に動く杵を描いたものだそうです。

十二進法では、前半が終わって後半が始まる位置、すなわち午前が終わって午後が始まる位置を指し、その交差点を「正午」というのだそうです。

十二支では7番目で中間にあたり、草木の成長期が終わって、衰えはじめていく時期を表しているといわれています。

これを「馬」にしたのは、一般の人々に十二支を浸透させるために、その字から連想されるなじみのある動物の名前があてられたそうですが、十二支の順番や選ばれた理由などは定かではないそうです。

「ウマ」と「ヒト」との関係

「ウマ」は草食性の動物で、寿命は約25年。知能は家畜の中ではかなり高く、日頃から愛情を込めて身の回りの世話をしてくれる人物に対しては絶大の信頼をよせ、従順な態度をとるなど、大切にしてくれたり可愛がってくれる人間の顔を、生涯忘れないといわれています。

純粋な野生の「ウマ」は、自然環境の変化や人間の狩猟によりほとんど絶滅しましたが、内燃機関(エンジン)が発明されるまでの長い間、人類にとって最も一般的な陸上の移動・運搬手段となることで、家畜動物として繁栄してきました。

肉や皮としての利用に始まり、乗用・馬車用と移動手段としても活躍し、現在は乗馬や競馬などの趣味・娯楽を提供するなど、人間にとって欠かすことのできない動物です。



「ウマ」は縁起がいい!?

絵馬の由来

馬は昔から有用な動物として重宝されてきました。奈良時代には、神の乗り物として寺社に奉納されていたという記録がありますが、馬は高価で奉納しにくく、また奉納された寺社の側でも世話をするのが大変だったため、馬を奉納できない者は次第に木や紙、土で作った馬の像で代用するようになり、平安時代から「板に描いた馬の絵」で代えられるようになったそうです。これが「絵馬」の始まりとされています。

昭和以降は、学問の神として菅原道真を祀った天満宮（福岡県太宰府市など）に受験生が合格祈願の絵馬を奉納する風習が盛んになりました。現在、「絵馬」は寺社の縁起物として、また、お守りとしても人気があります。

将棋の駒の「左馬」

「馬」の字が逆さに書かれている「左馬」は、山形県天童市で生まれた天童独自の将棋の駒です。天童市では、家を新築した人や商売を始めた人への贈り物として重宝されています。

1 「うま」を逆から読むと「まう」と読めます。「まう」という音は昔からめでたい席で踊られる「舞い」を思い起こさせるため、「左馬」は福を招く縁起のよい駒とされています。

2 「馬」の字の下の部分が財布のきんちやくの形に似ています。きんちやくは口がよく締まって入れたお金が逃げていかないため、古来から富のシンボルとされています。

3 馬は人がひいていくものですが、逆になっているため、普通とは逆に馬が人をひいてくる（＝招き入れる）ということから商売繁盛につながるかとされています。

4 馬は左側から乗るもので、右側から乗ると落ちてしまいます。そのようなことから、左馬を持つ人は競馬に強いといわれています。

このようなことから、「左馬」は福を招く商売繁盛の守り駒とされています。



「ウマ」にまつわる言葉、ことわざ

馬が合う

乗馬では、馬と乗り手の呼吸がぴったり合わなければならぬことから、気がよく合うこと。意気投合すること。

竹馬之友

中国の故事から、幼なじみのこと。幼いころ竹馬に乗って一緒に遊んだ頃からの友達という意味。

人間万事塞翁が馬

中国の故事から、人生における幸不幸は予測しがたいということ。いつ、幸せが不幸に、不幸が幸せに転じるか分からないのだから、安易に喜んだり悲しんだりするべきではないという例え。



「ウマ」のつく漢字、名字、地名

パンコに登録されている馬のつく「U」S漢字は、駅・駐・騰など、112文字もあります。難しい漢字が多いため、なじみが薄いものも多いようです。また、馬のつく名字も意外に多く、市内でも多い「相馬」のほか、馬場・馬淵など60以上の名字があるようです。

また、全国各地に馬がつく地名があります。市内にも村上地区の上海府地域に「馬下」というところがあります。馬下邑由来記によれば、平安時代、源義経が奥州藤原氏を頼って落ちのびる際に、あまりの山の険しさに現在の馬下集落がある辺りで馬を下りたことに由来するそうです。

馬下断
下断
もえ下
経伝馬
義とる
山(岩)
左)した
崖



(右)馬下地域内にある地名の由来について記載した看板